

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373100835		
法人名	株式会社 いわしや窪田		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 やすらぎの里にしき		
所在地	熊本県球磨郡錦町大字西鳥越 141		
自己評価作成日	平成29年7月15日	評価結果市町村受理日	平成29年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ、平屋建ての静かな環境であり、家庭的な雰囲気の中で入居者それぞれの個性を生かしながら、個々の思いをくみ取り、意向に沿った介護ができるように職員が取り組んでいます。見守りを重点的に考え、ホール、居室内は自由に行き来できるようにし、必要時は2棟間の間も行き来ができるように見守りをしています。園庭では地域の方々等と共催の焼肉会やお茶会等の行事を取り入れたり、季節の花見やドライブ等生活にメリハリができるように計画し、実施しています。誕生会には、地域のボランティアの訪問を依頼し、錦町の図書館からの読み聞かせ訪問、介護相談員の訪問等、地域の連携を保ちながら交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成14年に開設したホーでは、入居者にとってこれまでの生活環境の中で職員に見守られながら、穏やかな日常生活が繰り広げられている。地域性を生かした地区との合同夏祭りやボランティアとの交流、グラウンドゴルフ大会の主催等これまで築き上げてきた地域との関係が表出したホームである。入居者の現状は在宅酸素や透析、臥床中心等重度化傾向にあり、職員は健康管理を徹底し、今できる最大限のケアに努めている。今年度は管理者の変更という過度期に当たり、“その人らしく”をモットーとしてレベルアップに励みたいとリーダーシップが発揮されている。職員同士やユニット間も団結して夏祭り等を盛り立てており、今後もチーム力を発揮し今だからできる事を見出し、すぐにできる事に挑戦されることが期待される。この地域のなかで大きな期待が寄せられたホームであり、更なる展開に大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時には「理念」の唱和を行っていたが、現在はその機会が少なくなっている。今後は理解を促し実践へ繋げるように努力に努めたい。	信頼と博愛を大前提とした法人理念と共に、目配り・気配り・心配りや、入居者の声をしっかりと受け止める事等をグループホームの理念として掲げている。管理者変更という過渡期にあり、言葉使いや接遇面を課題とし、指導されている現状にある。	管理者は業務中心になっており、スキルアップや、理念が日々のケアに反映できるようにと努力されている。更に理念の具体化や課題などを全員で話し合う機会を作られることを望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に地域の方々に協力を依頼(ボランティア等)したり、地域の行事に参加しお互いの交流の場を作っている。又、地区の美化作業・リサイクル活動等は職員が参加を継続している。	自治会に加入し、美化作業やリサイクル活動等地域の一員として活動している。地区との合同夏祭り、グラウンドゴルフ大会の主催等この地にしっかりと息づいたホームである。近隣住民の野菜のおすそ分けや、ボランティア参加による誕生会の他、中学生のワークキャンプ受入れによる交流等が行われている。	地域の中での生活基盤は確立している。今後も地域住民が気軽に立ち寄れる環境として、ホームの入口の看板について検討いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設と地区の合同での夏祭り、敬老会、町民参加のグラウンドゴルフ大会等開催し、その都度パンフレットの配布や現状報告などを行っています。行政の認知症講演や徘徊声かけ模擬訓練等にも職員が参加している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、区長、民生委員、行政職員、包括支援センター職員、家族、入居者を交えて施設の状況を説明し、月1回の職員全体会議にて結果を報告、指導内容等周知、検討会を実施してる。	2ヶ月毎に地区住民代表を議長として開催。入居者個々の動向や現状、行事の実施等多くの報告書の下説明し、意見交換が行われている。入居者と家族は輪番としての参加等、充実したメンバー構成であるが、開催場所(有料ホーム)については検討されることが望まれる。	詳細な説明であることは、報告書に表出している。更には、議事録を作成し、出された意見等をサービスに反映されることや、グループホーム内を会場とすることを検討いただきたい。入居者の日常生活を見ていただくことで、認知症ケア啓発に繋がるものと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	通常より、報告、相談等情報交換は行っている。入居・退去の連絡、事故報告や運営推進会議での協議、各報告書等の方法、指導等も頂いており、行政職員からの利用状況の問い合わせ等連携は深めている。	介護相談専門員制度を活用し、ケアサービスに反映させている他、入退居、事故報告等を報告し適切なアドバイスを得ている。また、ホーム行事(夏祭り等)には町長をはじめとして行政からの参加もある。地域包括支援センターからの相談による入居やホーム側も空き状況を発信する等相互の協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状では一人ひとりの見守りの強化に努め、絶対に身体拘束をしない適切なケアに取り組み、一日の生活リズムを整え、昼夜逆転による夜間徘徊の対処法や拘束についての理解が周知できるように、その度指導に努めている。	入居者の個々の状況を把握すべく申し送りを徹底しているが、管理者は全職員で話し合う体制が出来ておらず、徘徊時の対処方法等原因を追及する必要性をその都度職員に指導している。玄関等の施錠については職員の体制が整い次第、再検討されることが望まれる。家族の同意を得て足元センサーを使用している。	徘徊により玄関は施錠されている。職員の見守り体制や外出の気配等観察力を生かしたケア等全員で話し合える機会を作っていただきたい。また、勉強会を開催し、具体的な事例の検討等により抑圧の無い生活を支援される事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の虐待防止については、職員に重点目標の一つにあげ、虐待防止に向け朝礼や全体会議などで指導、勉強会を通して周知してもらえるように努力しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間での学習、研修等は現在なされていないが、行政や他事業所での研修会には参加している。必要に応じ、勉強会の機会を作るように努める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時、契約時や改訂時には重要事項と共に十分な説明を行い、家族、身元引受人様よりの情報を頂き、できるだけ本人の今までの生活を維持できる支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱の設置はしているが、投稿を貰うことは殆どない。家族の訪問時にご本人の状況報告をして、家族様のご意見を頂くようにしている。	意見箱の他、家族の訪問時に状況を報告すると共に要望等を聞き取りしている。また、毎月写真を中心とした便りにより状況を発信している。家族からは“ありがたい・お世話になっている”等が多く、苦情の申し出は無い。家族の言葉は職員のモチベーションとして生かされと思われ、職員との共有化を図っていただきたい。	夏祭りや担当者会議には家族に参加が促されている。家族の忌憚の無い意見や要望がケア向上に反映できる要因の一つであり、家族の訪問を生かし、今後も意見等を吸い上げていただきたい。また意見箱は見直す意向であり、誰もが利用しやすいように工夫いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	限られた職員体制のため、業務に追われて会話や、面談が不足気味である。全体会議などを通して職員の建設的な意見が運営に反映できるように努めていきたい。	管理者は毎朝各棟への挨拶まわりをすることで入居者及び職員とのコミュニケーションを図っている。毎月の全体会議により職員の意見等を収集している。また、法人部長はTELにて職員の要望等を聞き取りしている。更には管理者による個別面談を行いたいとしている。	1日の業務の中で、事業運営改善に向けた話し合いの場が作れないか検討いただきたい。今後も職員の意見や提案を生かしたホーム作りに期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社が熊本にあり、代表者代理の訪問での情報収集であるが、職場環境などを管理者が報告して職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、職員の入れ替わりが頻繁にあり、職員のケアが十分に把握できていないのが実情。法人外での研修は、その都度回覧を行い募っているが、なかなか時間が取れていない。今後は工夫をして研修時間を確保したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間では協議会を開催し参加し、情報の交換を行ってネットワーク作りや勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴等、家族を交えながら情報の収集に努め、本人及び家族の希望を十分に聴き、不安の除去に努めた会話で、安心が確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、契約時には重要事項と共に十分な説明を行い、家族、身元引受人様よりの情報を伺い、家族の要望をできるだけ受け入れて支援する事を説明するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者が入居に至った経緯を理解し、生活環境の変化で、状態の変化や症状の悪化がないように努めながら、帰宅願望等の対処方法を家族と相談しながら支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気は保てるように、本人の理解の能力に応じた声かけ、夜間も声を考慮していきよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活歴等、家族を交えながら情報の収集に努め、本人及び家族の希望を十分に聴き、不安の除去に努めた会話で、安心が確保できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の地域での交流があった方々の訪問は見られている。行き付けの理美容室などへは送迎を行い、本人がやりたい事や行きたい所へは、できるだけ意向に添えるように努めています。	老人会からの訪問や、美理容室の継続、盆・正月の帰省、墓参等家族の協力も得ながら支援している。初詣や節分の豆まき、おくんち祭等馴染みの関係性が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりひとりの個性を勘案しながら、環境を設定し、できるだけお互いの顔が見えるように、ホールの居場所を考え、孤独を感じない距離での空間を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了が病状悪化での病院移送後の死亡の例が多く、病院での療養を継続されている場合は、機会を見て面接を行い、家族や本人の状況に合わせた支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が可能な方に対しては、傾聴に努め、本人の思いを聞き出すようにして、思いを知ることができるように努めています。意思表示ができない方には、表情やしぐさ、動きの読み取りに努めています。	認知症状の進行も見られる中で、職員の方からイエス・ノーで返答できるような声かけを行いながら、聞き取りしている。直接の申し出も見られるが、発語困難や意思の表示が難しい等個々の状況を把握し、表情も意思と捉えている。また、顔を見て話しかけることで、思いを引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や身元引受人等からの情報や、本人からの情報等で生活歴を把握する事に努め、できるだけ希望に応じた環境を提供できるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状では、これ以下のADLの低下が目立ち全介助状態の利用者が増えてきていて、特養並みの生活の型が増えてきている。自分で動く方に対しては、個々の心身状態を把握し、できる事、できない事を踏まえて支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、介護職員、看護職員を不含め、ケア会議にて現状を見極め、ケアプランに沿った介護に努めるように努力しています。	日々朝礼や申し送りの中で状況を共有し、現場を職員から聞き取りし、担当者会議を開催している。半年毎に見直し、大きな変化が見られない場合には継続している。家族にも担当者会議への参加を依頼はされているが、参加は難しい状況のようである。	管理者の変更に伴い、プランの見直しが行われている。家族からはお任せしますが多いとのこと、今後家族側が意見や要望を出しやすいよう工夫をされることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活援助表を利用し、毎日の生活を全員が把握できるようにして、職員間の申し送りを十分にしながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員だけの判断ではなく、必要時には家族とも連絡を取り合いながら、日々変化する状態、ニーズに沿った支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との共催の行事等は、全員で参加し地域の行事等はできる限りの参加を促して、それぞれが楽しく生活ができるように考慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	囑託医師については、定期的な往診及び緊急時の対応をしてもらい、健康状態の維持に努めています。又、協力医師以外の利用者については定期的な受診の送迎や介助を行っています。	本人・家族の希望するかかりつけ医を継続し、現在殆どの方が往診であるが、看護職員による受診や必要に応じ家族同行を依頼している。また、医療機関の送迎による支援も行われている。入居者の健康管理は申し送りやカーデックスを使用しながら共有しており、管理者も朝から入居者一人ひとりに声をかけ、コミュニケーションを図りながら健康状態を確認している。	今後も日々の健康管理や家族との連携を図りながら入居者の日常を支えていただきたい。また、医薬品については、保管場所を定め安全管理に努めていかれることが期待される。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は准看護師が1名であるも、訪問看護は利用していません。通常は准看護師の支持を仰ぎ、適宜相談しながら対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や協力医師との情報交換は常時行っている。入院の際はお互いにサマリー等で情報交換を行い、随時、面会訪問しながら様子を見て、その様子は職員間で情報を共有しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、「重度化及び看取りに関する指針」の説明と同意は得ているが、実情では家族と連絡をしながら行っています。日々の変化については、その度主治医、家族等に連絡して意向の確認をしています。	入居時に『重度化及び看取りに関する指針』をもとに、自然な形の終末であれば可能であるが、医療が中心となれば困難であることを説明している。現在は、本人・家族の意向により、状態が変化した場合は、医療機関への入院が主になっている。	ホームでの看取り支援は行われない方針であるが、今後は、入居者や職員の現状を踏まえ、必要な研修会への取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設間の交流や研修会等には、参加を促しており緊急時には、准看護師のオンコールで対応。できるだけ情報交換の場を持ち、自己研鑽に努めるように指導中です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、避難訓練は毎年3回実施している。訓練においては地元の消防団の協力を得ています。水害、震災避難訓練等は、実施できていません。今後、検討していく必要があります。	防火の避難訓練についてはマニュアルを作成し、地元消防団の協力を得、年3回の昼間想定で実施している。また、火元や消火器のチェックをはじめ、備蓄として水や米を備えている。これまで自然災害の訓練は実施されておらず、課題としている。	今後は夜間想定での避難訓練や自然災害について、まずは机上での訓練が必要と思われ、取り組みに期待したい。また、災害時の避難誘導の面からも、玄関の施錠方法については、早急な検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格を尊重した言葉掛けを心掛けている。表情や行動を見ながら対応し、入浴時、排泄の介助時には自尊心を考慮しながら対応に努めています。	管理者は個々の尊重やプライバシーへの確保という点で、「入居者に支援してあげている」という意識を持たないことを指導している。また、言葉使いなど、気づいたことがあれば、早急に回覧により周知に努めている。呼称は苗字にさん付けを基本としているが、徹底されていないことや馴れ合いのやり取りなど、今後の課題も語っている。	入居者目線や腰を下ろしての食事介助など、職員自身が大切な環境として今後も支援にあたられることを期待したい。また、個人情報が目につくところに掲示されており、守秘義務を含め、周知徹底する場を持たれることが必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望があれば、散歩や外出等はできるだけ対応できるように努めています。個々の意思を表現できるような対応を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示のできる人、できない人それぞれの表情、行動を察知しながら声かけし、随時の対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着と寝巻きできる範囲で交換しています。汚染時は即、対応をしています。散髪、髭剃り等はホーム内、外で随時、対応しています。身だしなみに注意をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢者が多くなり、なかなか一緒に調理ができませんが、下ごしらえ範囲でできるものは手伝ってもらうようにしています。テーブル拭き、おしぼり配布、お盆拭き等のお手伝いをお願いしています。	両ユニット共に、職員が立てた同じ献立を使用している。食材は地元スーパーや産直野菜の購入に出る他、業者による納入が行われている。食形態は個々の嚥下状態に応じて、キザミやハサミでカットし提供されている。現在、入居者は調理への関わりはないが、テーブル拭きやおしぼり巻きなどを声かけし、取り組んでいる。	入居者の状況から可能な食への関わり(献立作り、味見など)がまだあると思われた。現在、職員は入居者と一緒に食事を摂っていないが、共に食することで和やかに進み、新たな気づきも生まれことが期待される。食事直前のエプロンの着用や、適温での食事提供、ハサミの使用方法も含め、今一度楽しい食事支援への取り組みについて、再考されることに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を元に、個々の咀嚼、嚥下状態、排便の状態を考慮した献立を提供し、おやつの中には好きな飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの口腔状態にあわせ、毎食後歯磨き、口腔ケアを実施しています。自分でできる方は促し、不十分な所を介助しながら行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	意思表示ができる方はその都度トイレ誘導し、その他の方は、時間やしぐさ等で誘導し排泄介助を行っています。状態に応じてリハビリパンツやパットなどを使い分けしながら支援し、夜間はPTを利用される方もおられます。	チェック表を活用しながら、誘導や声掛けなど個々に合わせ、可能な限りトイレでの排泄を支援している。排泄用品はリハビリパンツが中心であるが、昼・夜などパットの使い分けを工夫している。夜間のみポータブルトイレを使用される方もあり、バケツの洗浄と日中は天日干しを徹底している。	ポータブルトイレの天日干しの場所については、プライバシーや景観の面からも配慮が必要と思われる。また、職員も入居者と同じトイレを使用することで、座り心地や臭気など、気づきが出てくるものと思われる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎回の排便確認で、回数や清浄などを記録し、排便困難時は処方薬や水分の補給等を行っています。レクリエーションや毎日の体操などは参加を呼びかけ、腸の動きを促すように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴に努め、本人が希望される時や汚染時などにできる限り希望に応じられるように努めています。	本人の希望も確認しながら、週2回以上の入浴や汚染時にはその都度取り組み清潔保持に努めている。現在は基本的に午前中の支援が中心となっている。浴槽は家庭的なものであり、脱衣所を含め、必要な手すりなどが設置されている。	浴室の窓の棚は、スッキリ整頓することで見晴らしも良くなると思われる。また、ひげそりの管理など、安全面への配慮に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調にあわせ居室やソファなどにて横になって頂いたりして休息ができるようにしています。夜間の空腹時などでは、小さいおにぎり等を準備することもあります。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの処方箋を准看護師が管理し、投薬準備をしています。処方箋の変更があった場合は准看護師の方から報告し、注意点等を情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レベルの低下と共に、作業のできる方が殆どおられず、簡単なタオルたたみ等は上肢の動きができる方などに手伝ってもらっています。時期によって、行事や花見等に出かけ、気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて花見等の行事を設けています。有料老人ホームの利用者と合同でドライブ等を計画し実施しています。お墓参りや自宅訪問を希望されればできるだけ支援しています。	バスハイクとして、初詣や花見(桜・桃ほか)、地元の祭りなど季節の外出支援に取り組んでいる。また、外気浴や希望があれば、墓参りや自宅訪問を支援しているが、散歩をはじめ日常的な外出は少ないようである。	ホームは敷地内でも散歩や散策など、身近な外出を楽しめる環境にある。暑さや寒さ、感染症など外出を控えなければいけない時期もあり、今の現状で可能な支援を模索しながら、笑顔を引き出す外出に取り組んでいきたい。また、ユニット間は通路として繋がっており、双方をご近所さんとして行き来することも一案であり、検討していきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては基本的に所持されておられず、家族より小額の預かり金を預り、出納管理をしています。自分で管理可能な利用者様においては、買い物等自分で管理されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば電話をかけて頂き、家族からの電話も出て頂き会話ができる様に配慮しています。家族、知人の手紙が届きますが読まれる事はありますがなかなか返信の手紙は書かれる事は困難です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は(ホール等)季節の花や入居者の写真等、会話と繋がる物を飾ったり、BGMやテレビ等、生活音らしく利用している。2面のガラス戸となっており採光などは管理ができており、空調管理も随時温度設定に気を払って、居心地の良い空間になるように努めています。	別棟に造られたそれぞれのユニットは、地域の名産「メロン」「なし」と付けられている。ホーム内の構造は同じであるが、入居者の作品を掲示したり、室温管理、テーブルの配置など、状況に応じ取り組んでいる。リビングから桜をはじめ、樹木の開花を楽しめる環境であり、職員も自宅から花を持ち寄りながら季節を楽しめる共用空間に努めている。	経年と共に物品も増え、掲示物の傷みや汚れ、整頓への取組が不十分に思われた。危険な物がないかを含め定期的な見直しに期待したい。また、テレビが常時付いていないか、テレビに頼っていないかなど、視聴について検討が必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの中でも、それぞれの希望や個性に沿って、テーブルの椅子の配置を考慮した、ソファや畳等を利用して状況に合わせてくつろいでもらっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具等は、馴染みの物を持参してもらい、室内の飾り等は本人や家族の思いを考えながら装飾としています。問題行動で衣類等の異常な取り扱い等がある型の場合は、一部預かりとさせてもらっています。	居室の戸には「さくら」や「ゆり」など馴染みの花や入居者名の他、車椅子使用の表示が掲示されている。また、明り取りを兼ねた小窓は不安になる方もおられ布で遮光されている。ベッドや収納庫、エアコンが準備されており、家族により家具や寝具をはじめ、仏壇など本人の安心に繋がるようなものを準備している。身体機能の低下などから居室での時間が中心になられた方に職員は、見守りや食事支援など、可能な限り安心して過ごしてもらえるように努めている。	居室の広さは十分なゆとりがあるわけではないが、馴染みの品や好みの品の持ち込みは少ないように見受けられた。今後は家族の協力や職員のアイデアを活かしながら、本人にとって居心地良く過ごせる環境作りに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動かれる入居者様には見守りをしながら、できるだけ本人のやりたい事を思いのまま実施して貰えるように支援しています。		